

旧北部軍管区司令部防空作戦室

～北の地の守りに青春をかけた女性たち～

月寒には、明治時代から軍隊が置かれ、多くの軍事施設がありました。今回は、その中の一つ、旧北部軍管区司令部防空作戦室を紹介します。ここでは、太平洋戦争当時、女学校を卒業したばかりの女性たちが、北の地を守るため、任務に就いていました。

北海道映像記録株式会社提供（2007年11月29日撮影）

北の防空の要

旧北部軍管区司令部防空作戦室は、太平洋戦争に備えて、一九四三（昭和十八）年に旧陸軍が、現在の月寒東二条一丁目に建設しました。地上二階、地下一階の鉄筋コンクリート造で、外壁の耐弾層の厚さは、一二層もありました。北海道や東北北部、樺太、千島列島を守る北部軍の中樞を担う施設で、一階にあった情報室や警戒室では、各地から送られてくる敵の飛行機の情報などを収集していました。それらの情報を基に作戦を組み立て、指揮する地下作戦室は、地下から一階天井までが吹き抜けになっていて、壁には、数層四方と推定される情報地図盤や、



地下作戦室の復元図
（記録保存調査報告書より）

高さ六層を超える情報表示灯が設置されていました。これらの地図や表示灯には、集められた情報がすぐに電光表示されました。また、空襲警報なども、ここから出されました。

男たちの代わりに

防空作戦室には、当初、男性兵士の通信隊が任務に就いていました。しかし、戦争が長引くにつれて、前線などに赴いたため、兵員不足となりました。

そこで、一九四四（昭和十九）年に、札幌市内の高等女学校を卒業する十七・十八歳の女性などを採用し、女子通信隊として約二百六十人を配置しました。

通信所として

戦後、防空作戦室としての役目を終えた建物は、一九五二（昭和二十七年）に自衛隊の前身である警察予備隊の通信所となりました。その後、自衛隊が通信所として使用しましたが、二〇〇五（平成十七）年に閉所となり、〇七（同十九）年十二月から〇八（同二十）年三月にかけて解体されました。跡地には、国家公務員宿舎が建設される予定です。

旧北部軍管区司令部防空作戦室の復元模型

つきさっぷ郷土資料館に展示されています。

【つきさっぷ郷土資料館】
住月寒東2条2丁目

☎854-6430

開館日時 4月～12月の第一週までの水・土曜日の午前10時～午後4時



旧陸軍北部軍司令部防空作戦室の記録

上映時間13分のDVD。つきさっぷ郷土資料館や文化資料室、中央図書館などで視聴することができます。

詳細 札幌市文化資料室（住中央区南8条西2丁目 ☎521-0205）

旧北部軍管区司令部防空作戦室記録保存調査報告書

全220ページ。つきさっぷ郷土資料館や文化資料室、中央図書館などで閲覧することができます。

編集・発行 観光文化局文化財課（☎211-2312）